

発寒ひかり
保育園だより

2022年
5月号

巻頭言

コロナ禍での保育園生活も3年目となりました。子どもたちの目に映る保育士の姿はマスクをしている顔ばかりで、感情を伝える術は、声色と目元のみ。顔やその動きを見て表情を学ぶ赤ちゃんにとっての影響が心配でしたが、それでも笑いかけられる笑顔を見ると、安心し、心が温かくなります。

大きい子たちにもコロナ対策が身についてきましたが、子どもから、「コロナが終わったら遊びに行くんだ」と何度も聞くようになりました。話を聞きたび、対策をしつかりするよう声をかける度、切なさを感じます。

世の中の状況が大きく変わり、我慢をすることも多くありますが、園で過ごす時間を少しでも楽しめるようにと、コロナ禍でも工夫をしてきました。お祭りを体験したことがない（ひかりっ子まつりも2年中止）子どもたちに、楽しさを知ってもらおうと、3歳児クラス発信でお祭りごっこを開催しました。招待された2歳児たちは、活気あふれる賑やかな雰囲気、最初圧倒されていましたが、大きい子に「こっちにかきごおりあるよ!」「ここはわなげで、こっちはさかなすくいだよ!」いっしょにやる?」などとエスコートされながら、最後は帰りたくないと言いはめる子もいるほど楽しんでいました。大きいクラスだけでなく、乳児の小さい子も招待され、その後ファミリールームも開催するなど、お祭りごっこを園全体で楽しむことができました。子どもたちの楽しむ笑顔を見ると、私たちも明るい気持ちになります。

まだ続くであろうコロナとの生活。感染対策に気を付けながら、子どもたちの気持ちに寄り添い、楽しい時間を過ごせるよう、日々の保育に力を注いでいきたいと思えます。

くりファミリールーム 組担任 佐々木 礼香